

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 亀田 啓

	主査	教授	筒井	裕之
審査担当者	副査	教授	渥美	達也
	副査	教授	岩永	敏彦
	副査	教授	櫻木	範明

学 位 論 文 題 名

下垂体副腎皮質刺激ホルモン産生細胞におけるニューロメジン B の発現と
細胞増殖における影響の検討

(Expression and proliferative activity of neuromedin B in pituitary
adrenocorticotropin-producing cells)

学位申請者亀田啓の学位論文審査会は、平成 26 年 2 月 14 日午後 16 時 30 分より医学部 5-1 セミナー室において行われた。学位申請者はスライドを用いながら約 30 分に渡って学位論文内容の発表を行った。発表では Cushing 病に対する有効な薬物療法がないことが臨床上的問題点であることを説明し、Cushing 病の治療標的となる分子を見出すことが本研究の目的であると述べた。研究の第 1 部ではメラノコルチン 2 受容体 (MC2R) KO マウスを用いた検討から、原発性副腎不全の状態において下垂体 ACTH 産生細胞にニューロメジン (NMB) が発現していることが証明されたと述べた。第 2 部の実験はマウス ACTH 産生下垂体癌細胞株ならびにヒト下垂体腺腫検体を用いて行われ、NMB が ACTH 産生下垂体腺腫に発現しており細胞増殖への関与が考えられることから Cushing 病の治療標的として可能性がある結論した。その後副査岩永敏彦教授からラットにおける NMB 発現の報告と今回の研究結果との差異についての質問と NMBR 抗体を用いた免疫染色についての質問があった。次に副査櫻木範明教授より NMBR の構造や NMB の生理的な意義についての質問があった。最後に主査筒井裕之教授より NMB の発現調節や増殖に関わる細胞内シグナルについての質問があり、学位申請者はいずれの質問に対しても質問に即した過去の報告を引用し適切に回答した。この論文は NMB の下垂体 ACTH 産生細胞における発現を初めて明らかにし、また下垂体腺腫の増殖との関連についても検討を進めており高く評価され、今後の下垂体疾患の治療法の発展に寄与することが期待される。審査委員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士 (医学) の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。